

# 公衆衛生情報

特集  
時々刻々

## 第79回日本公衆衛生学会総会

地域保健活動最前線

保健所における喫煙対策の現状と課題

(静岡市保健所)

過去の事例から学ぶ健康危機管理事例

そ う し ん  
痩身効果を標ぼうする製品による健康被害事例

(岐阜県保健環境研究所)

# 都市型まちモデル

## 「松戸プロジェクト」の取り組みとその成果

飯塚玄明、近藤克則

千葉大学予防医学センター

「健康なまちづくり」から、「まちづくりの結果としての健康増進」へ

従来型の健康なまちづくりでは、主に行政の健康担当部門が喫煙・食事・運動といった生活習慣のは正を試みる健康教室などを中核とする取り組みを行ってきました。しかし、健康教室では健康無関心層や自助しにくく、限界があることが分かつてきました。「健康」や教育的なアプローチにとどまる介入からの新段階への移行が求められています。<sup>1)</sup>

健康の社会的決定要因(Social determinants of health: SDH)を改善し、健康格差を緩和する効果

が期待できるものに、ソーシャルキャピタルへの介入があります。ソーシャルキャピタルは、「人と人とのつながりや、社会活動への参加などにより生まれる、信頼、規範、ネットワークといった資源」と定義され、健康に良いことが示されています<sup>2)</sup>。健康を主目的にしなくとも、社会参加を促進するなどソーシャルキャピタルを豊かにすることが結果的に健康につながることが分かつてきました。つまり、新段階が分かつてきました。

ソーシャルキャピタルを活用したまちづくりの結果としての健康増進があり得なのです。実際、社会参加を促進するまちづくりに外部の者が見が出ました。それがわれわれが取

(1) 松戸プロジェクトの取り組み  
社会参加を促進するまちづくりは、主に小中規模の市町村で見られてきたものの、今後高齢者が急増する大都市部におけるモデルはありませんでした。日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)では、退職者や企業、NPOなどの大都市部ならではの資源が豊かに着目した「松戸プロジェクト」に取り組み、追跡中です<sup>3)</sup>。松戸プロジェクトは、千葉県松戸市とJAGESの事務局がある千葉大学予防医学センターとの共同研究協定の下に、2016年11月から開始したプロジェクトです。東京に隣接する人口48万人の松戸市において、都市の豊かな資源を活用し、通いの場である「元気応援くらぶ」の開設や運営を支援しています。事前調査として、無作為抽出した65歳以上の高齢者8000人を対象に、介入前の社会参加の状況や、要支援・要介護リ

り組む都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」です。小論では同プロジェクトを紹介した後、新段階の特徴を考えます。

### 松戸プロジェクトの取り組み

#### (1) 松戸プロジェクトの取り組み

社会参加を促進するまちづくりは、主に小中規模の市町村で見られてきたものの、今後高齢者が急増する大都市部におけるモデルはありませんでした。日本老年学的評価研究

(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)では、退職者や企業、NPOなどの大都市部ならではの資源が豊かに着目した「松戸プロジェクト」に取り組み、追跡中です<sup>3)</sup>。松戸プロジェクトは、千葉県松戸市とJAGESの事務局がある千葉大学予防医学センターとの共同研究協定の下に、2016年11月から開始したプロジェクトです。東京に隣接する人口48万人の松戸市において、都市の豊かな資源を活用し、通いの場である「元気応援くらぶ」の開設や運営を支援しています。事前調査として、無作為抽出した65歳以上の高齢者8000人を対象に、介入前の社会参加の状況や、要支援・要介護リ

スケが算出できる項目についての回答を得ました。回答者4474人のうち572人(12.8%)にボランティアへの参加意向があることも分かりました。

(2) 松戸プロジェクトの特徴  
松戸プロジェクトでは、プロジェクトに賛同するボランティアをリクルートするときに、今までも存在した「お手伝い型」や「講師・芸人型」拠点運営型に加え、「プロボノ」という新しいスタイルのボランティアを積極的に募りました。「プロボノ」は、「社会的・公的的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かしたボランティア」を意味しています。2017年5~6月に「プロボノ」の説明会を行い、延べ42人が参加し、そのうち19人が最終的に通いの場5か所を対象に活動しました。活動内容は、①参加者・協力者を募るチラシ作成②通いの場利用者の「一々」を把握する調査③介護予防拠点立ち上げ時のリスク整理一等でした。また「元気応援くらぶ」を間接(後方)支援する本社機能を担うボランティアであるパートナーを募り、初年度は10人に委嘱しました。さらに、さまざまな事業者にも協力を求め、製薬会社や通信、保険会社など民間企業や地元のNPO、

図 松戸プロジェクトにおけるボランティアと事業者

ボランティアの形	
お手伝い型	すでにある拠点のお手伝い
講師・芸人型	一芸を出前
拠点づくり型	新しい拠点をつくりたい
プロボノ型	専門スキルで貢献したい
本社機能型	マネジメントや間接支援が得意

  

事業者の関わり方	
サービス・商品提供型	カラオケ、フィットネス、健康食品
専門的技術支援型	医療・介護専門技術による支援 薬局・栄養士
専門的技術による間接支援型	ICT技術、戦略策定支援
プロボノ型	専門スキルを持った社員を派遣
協賛型	お金や場所、人手の提供

事業者など、計18団体が協力を申し出ました。都市型介護予防モデルでは特にプロボノ型・本社機能型のボランティアや、事業者の協力、メディアを活用することが、従来の小中規模の市町村での取り組みにはなかた特徴といえます(図)。

(3)松戸プロジェクトの中間報告

プロジェクト開始後、「元気応援くらぶ」は2016年には22か所だったのに対し、2017年には40か所、2019年には60か所余りに増えました。スポーツ・趣味・ボランティア・学習教養などのサークルやグループに月1回以上参加している者の割合は、2016年では46・6%だったのにに対し2018年には51・9%と、2年間で5・3ポイント(市全体で約50000

人に相当)増加していました。2年間の追跡で社会参加していない人と比較して、社会参加している人では要支援・要介護リスクの悪化確率が約30%低いことが分かりました。その中でも、「元気応援くらぶ」の参加者は、要支援・要介護リスクの悪化確率が1年間の追跡で約60%低いことが分かりました。松戸市のような都市部でも、元気づくりの通いの場ができる、「元気応援くらぶ」を増やすことができ、社会参加や人との交流、ボランティアなど住民の主体的な活動が増え、結果として健康に大きな好影響があることが分かつてきました。

### 「まちづくりの結果としての健康増進」

#### (1)行政の健康担当部門以外の組織が主導

新段階「まちづくりの結果としての健康増進」の特徴として、(1)行政の健康担当部門以外の組織が主導 (2)多様なステークホルダーの関与 (3)健康に特化しない「まちづくり」の結果としての健康増進→が挙げられています。「松戸プロジェクト」の実態と(1)~(3)の特徴について考察します。

#### (3)健康に特化しない「まちづくり」の結果としての健康増進

多様な組織が関わっていることから、必ずしも健康を主目的としない

松戸プロジェクトには松戸市に加え、研究者やNPOも共に参加し、健康への影響を分析しながら進められています。健康長寿社会の実現には、研究者や医療者、行政、NPO、企業など、さまざまな立場の人、組織がそれぞれの強みを持ち寄り、共通のゴールに向けて社会的課題を目指すアプローチ、つまり「コレクティブ・インパクト」が必要だといわれています<sup>4)</sup>。松戸プロジェクトの運営にもこのアプローチが用いられ、都市部ならではの資源を活用し、住民主体の活動を活性化させソーシャルキャピタルを豊かにし、健康寿命延伸につなげるという共通のゴールを目指しています。

#### (2)多様なステークホルダーの関与

本社でのマネジメント経験が豊富な人がボランティアで間接支援を行ったり、専門スキルを生かすプロボノの参加、サービス・商品提供型や専門的技術による間接支援型の事業者などの関与がありました。従来型のお手伝い型のボランティアなどに加え、主体的に関わってくれる多様な個人や事業所が多くつたのも特徴です。

### まとめ

一例として松戸プロジェクトを取り上げ、新段階「まちづくりの結果としての健康増進」の特徴について考えました。今後、多様なボランティアや企業・有志団体を巻き込んだ全世代型地域共生のまちづくりによる健

#### ■参考文献

- 曾根智史、近藤克則、藤内修二、藤原佳典、松本珠実：平成28年度地域保健総合推進事業「ソーシャル・キャピタルを活用した地域保健対策の推進について」報告書、日本公衆衛生協会、2017。
- Ichiro Kawachi著:Social Epidemiology second edition, Oxford University Press, 2014.
- 飯塚玄明、岡部大地、近藤克則：第2章 最新！フレイルの原因と対応のアップデートもっと見る 9.まちづくり～フレイル予防のエビデンスから実践まで.Gノート増刊7(6),2020-09.
- HELPMAN JAPAN JAGESと松戸プロジェクトの取材記事(2018.08.10)  
<https://helpmanjapan.com/article/7741>(最終確認日:2020年12月10日)
- 松戸市：松戸市高齢者の元気応援・介護情報サイト  
[https://www.city.matsudo.chiba.jp/matsudodekiiki/mokuteki/gaishutsu\\_tsudo/genkiouenkurabu.html](https://www.city.matsudo.chiba.jp/matsudodekiiki/mokuteki/gaishutsu_tsudo/genkiouenkurabu.html)(最終確認日:2020年12月10日)

子ども食堂や認知症カフェなどの活動との連携事例や、茶話会や手編み、短歌など交流を目的としたもの、スマートの使い方や日本舞踏など一芸を生かされた活動もありました。関わる個人や事業所によって健康以外を主目的に活動しており、「健康」にとどまらない広い意味での「まちづくり」とだと考えられます。